

令和2年度広瀬川における天然アユ遡上調査結果

令和2年6月26日
宮城県水産技術総合センター
内水面水産試験場

宮城県水産技術総合センター内水面水産試験場では、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、天然アユの遡上状況を調査しています。本年度の調査結果は、以下のとおりです。

(1) 調査点

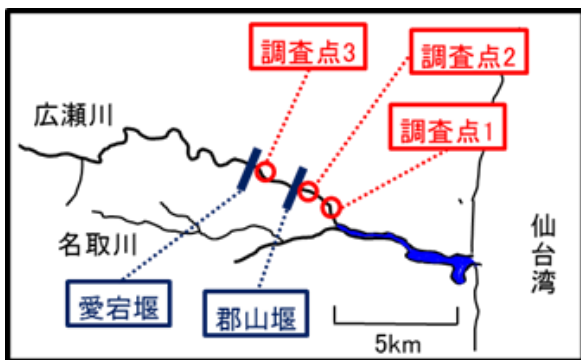


図1 アユ遡上調査地点

調査点1：名取川との分岐点から

2 km 上流（河口から 8 km）

調査点2：郡山堰下（河口から 10 km）

調査点3：愛宕堰下（河口から 11.5 km）

(2) 調査実施日

5月8日，27日，6月11日，19日

(3) 調査方法

各調査点において、投網を10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、1調査点あたり50尾のアユを当场に持ち帰り、大きさ（標準体長および体重）を測定しました。このとき、広瀬名取川漁業協同組合では、調査区域内に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。



図2 調査風景①



図3 調査風景②

(4) 調査結果

①各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（直近3ヶ年と平成24年から平成29年までの平均値）を図4に示しました。調査期間を通して、調査点1は、投網1投あたり2.2～25.7尾、調査点2では投網1投あたり1.6～16.7尾、調査点3では投網1投あたり0～0.2尾の天然アユが採捕されました。

5月時の調査点1, 2は、過去の平均採捕尾数と比較して、採捕尾数が少ない傾向でしたが、6月になると調査点1, 2ともに平年並みの平均採捕尾数となりました。しかし、さらに上流の調査点3では、5月8日以降、天然アユは採捕されませんでした。

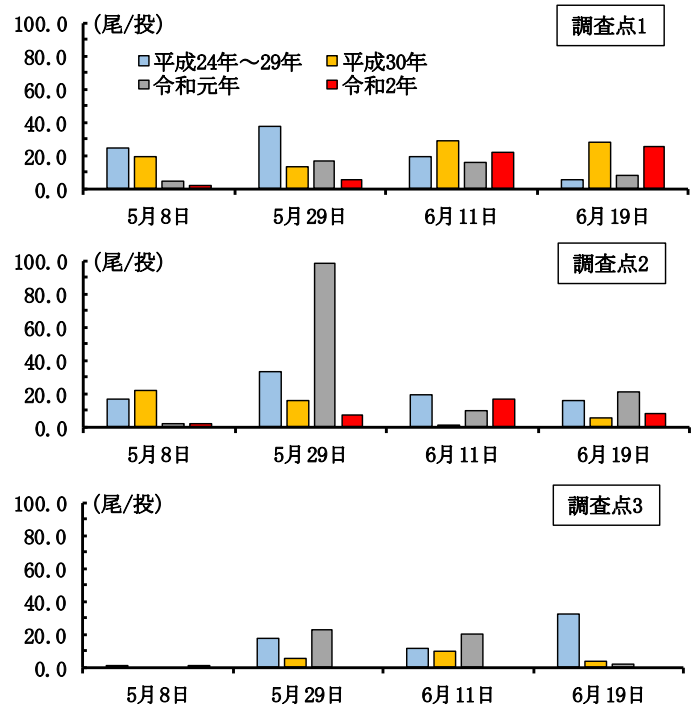


図4 各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（月日は本年度の調査日とし、他年は過去に同時期に調査した結果を掲載した。）

②調査点2で採捕した天然アユの魚体サイズ

5月、6月の調査期間中に調査点2で採捕した天然アユの体サイズ（標準体長および体重）の散布図を図5に示しました。5月は最大で13cmほどの個体が見られ、6月になると15cmを超える大型の個体が見られました。令和元年度に採捕した天然アユの体サイズと比較すると、本年度は6cm以下の小型のアユが見られず、12cmを超える個体が多く見られました。

本年度の広瀬川における天然アユの遡上調査は6月19日で終了しました。本年度は平年と比較すると採捕尾数は少ないものの、大型の個体が多く見られました。当场では来年度以降も調査を継続する予定です。

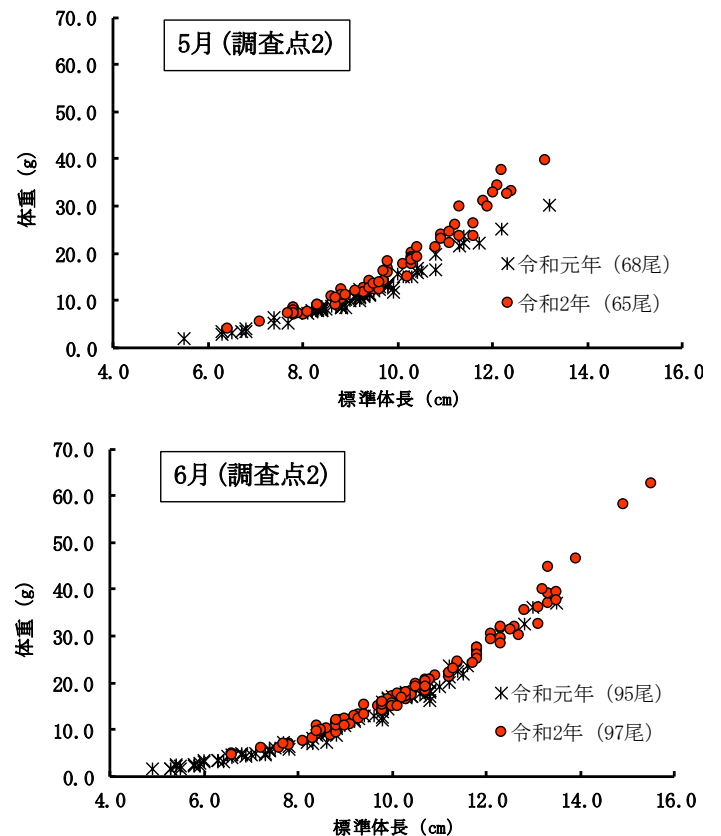


図5 調査点2での天然アユの魚体サイズ